令和８年度　第１回　佐久市立近代美術館協議会　議事録

日　時　令和８年６月３０日（火）午後３時００分～午後４時３０分
場　所　佐久市立近代美術館　視聴覚室
出席者　委員９名（欠席１名、途中退席１名）、事務局７名

１　開会（事務長）
　　委嘱書交付
　　自己紹介

２　あいさつ（部長）

３　会議事項
　　進行：武重会長
（１）令和７年度事業報告について
事務局：（１）説明

委　員：展覧会の観覧料について、20 名以上は団体料金ということだが、団体の割合や、実際に団体で来ている方の集計は取っているか。

事務局：団体料金の内訳についての資料が手元になく、申し訳ない。 昨年度実施した企画展「比田井天来とその流れ」では、県外から書道団体の方がバスで来館した。また、企画展「佐久地域ゆかりの作家　塩川髙敏」では、塩川の出身校である上田高校の美術班（美術部）の同級生が団体で来館した。具体的な人数を申し上げられず、申し訳ない。

委　員：令和７年度事業で「動物たち大集合！」展を開催しているが、これについてはこの資料に掲載されていないのか。

事務局：「動物たち大集合！」展は３月からの開催で、年度をまたいで実施しているため、「令和７年度　近代美術館　事業報告」には掲載していない。

委　員：来館者数が目標の１万人に届かず残念だった。資料を見ると、残念ながら「動物たち大集合！」展までは目標観覧者数に達していない。「動物

たち大集合！」展では人が入っているように感じるが、そのあたりの分析や、この展覧会は目標値に達して他はなぜ目標値に至らなかったのかについて伺いたい。

事務局：「動物たち大集合！」展は、当館のコレクションから、動物や架空のいきものなどをモチーフとした作品を展示した展覧会である。展示期間が、春休みやゴールデンウィークにかかっており、来館者の状況を見ると、家族連れの方、子ども連れてきた方などが多かった印象を持っている。委員のご指摘の通り、目標値に届かない展覧会があった。当館では、なるべくお金のかからない方法で広報活動を行っている。お店にポスターを掲示していただいたり、こちらはお金がかかっているが駅のホームで告知したりなど、何とか皆様に知っていただけるような形でチラシやポスターを配布したりしている状況である。また、機会があれば佐久ケーブルテレビや信濃毎日新聞などに取材に来ていただいているが、なかなか観覧者が伸びないという現状がある。どのような形で広報するのが良いのかは我々も悩んでいる部分であり、委員の皆さまからもご意見をいただいて内部で検討したい。これだけのコレクションがある美術館なので、目標にしているコロナ禍前の１万人を達成するために、より良い展覧会を実施していきたいと考えている。

委　員：「ぬいぐるみお泊り会」とはどのようなイベントか。

事務局：このイベントは定員が 10 体のところ、多くのご応募をいただいた。10 体のぬいぐるみをお預かりし、ぬいぐるみが展覧会を鑑賞している様子などを美術館職員が撮影し、その写真をプリントしてお渡しした。昨年度にはじめて実施した事業で、費用としては、写真のプリント代として 200 円を参加費としていただいた。

委　員：観覧者の人数の件について、佐久市の LINE などで佐久市のイベントの情報が流れてくると思うが、美術館ではこうしたところにイベントの情報などを流しているのか。

事務局：佐久市のホームページの中に近代美術館のページがある。そこで展覧会の情報や関連イベントの情報、次回展の告知などを掲載している。また、佐久市公式 LINE にも情報は掲載しており、そちらではイベントの申し込みもできるようになっている。また、美術館の非公認応援キャラクタ

一のXのアカウントで美術館の情報をポストしている。

委　員：私は令和７年度の展覧会で、佐久ゆかりの作家の田村文雄と塩川高敏の展覧会が印象に残っており勉強になった。観覧者数が目標値には達していないが、人数は多少増えており、観覧料や図録取扱費は増えている。「塩川高敏」展は図録がきれいで良かったと思う。そういう図録を作製していただくと、収益が伸びるのではないか。佐久地域ゆかりの作家はほとんど知らなかったため、やっていただくと興味のある方は来ると思うので、そういう企画をまたしていただきたい。

事務局：学芸員が佐久地域にゆかりのある作家を調べて展覧会の実施に至った。引き続き、佐久地域ゆかりの作家を調べて展覧会に活かしていきたいと思っている。

委　員：事業報告とは異なるかも知れないが、美術館を今後どうしていくか、観覧者数をどう増やすか、企画展をどのように開催するかなど、美術館を運営するうえで様々な課題があると思うが、美術館の職員がどこかに研修に行ったり、あるいはどこかを参考にしたりなど、そのあたりについて伺いたい。

事務局：今年に関して言えば、当館では収蔵庫のくん蒸消毒を実施しているが、くん蒸消毒の取り扱いに関する研修（くん蒸に依らない文化財IPMによる収蔵庫の維持管理に関する研修）が、毎年文化庁の主催によって九州国立美術館（九州国立博物館）で実施されている。今年度は10月下旬に開催の予定だが、そうした研修に、美術館職員だけでなく、市で文化施設を担当している文化振興課の職員も含めて内部で人選を考えて研修を受けたいと考えている。その他、一昨年には美術館再構築のために県外の美術館を視察したりなどを行なった。

（２）令和８年度事業について
事務局：（２）説明

委　員：今年度の事業について、ワークショップ等を何回か実施されると思うが、どのようなタイミングでPRするのか。「展覧会案内」には出ていない。

事務局：「展覧会案内」には紙面のスペースの問題があり、掲載していない。イ

ベント等の情報については、先ほど申し上げた通り、近代美術館のホームページや佐久市公式LINEに掲載している。また、ポスター・チラシにも情報を掲載し、皆さまに情報が届くように、充分ではないかもしれないがPRしている。

委　員：佐久市公式LINEについて、チラシのように出てくる情報と出てこない情報がある。私のやり方の問題かも知れないが、私が見ている佐久市公式LINEでは、美術館の情報は自分からアクセスしないと情報が見られない状態である。

事務局：当館としても PR が足りない部分がある。いただいたご意見をもとに、佐久市公式LINEやポスターなど、人の目に留まる形でPRしたい。佐久ケーブルテレビや、全国番組は予算的に厳しいかも知れないが、やはり人の目に触れないと足を向けてもらえないと思うため、今いただいた意見を参考にし、より人の目に触れるような形での情報発信させていただければと思っている。

委　員：佐久市デジタルミュージアムについて、ほとんど説明を受けていない状態でここに記載されている。美術館として、また文化振興課として、デジタルミュージアムをどこに向けて、なぜやっているのかについて、我々は把握していない。例えば、収蔵品が見られるとして、何のために見られるのか。我々協議会委員の中でも、デジタルミュージアムで収蔵品が見られるということを身近な人に勧めた方はいないと思う。このデジタルミュージアムを、例えば教育面で言えば教育資料としてどのように活用していくのか。構成や設計があったと思うが、美術館としてデジタルミュージアムをどのように取り組んでいくのか、また意義をどのように考え、どのように運用していくのかについて聞きたい。

事務局：こちらのデジタルミュージアムについて、4で説明した博物館の再登録の中で、（収蔵品を）デジタル資料として一般公開するという条件がある。それに対応する形でデジタルミュージアムを開設したというのが、理由のひとつである。ご指摘いただいたように、ホームページではデジタルミュージアムを開設したという情報は掲載しているが、先ほどと同じようにやはりPRの方法や、何のために誰に向けてやっているのか、どのように活用するのかについて、我々としてももう一度、美術館だけではなく、他の社会教育部の文化施設の収蔵品も掲載されているので、

関連施設も併せて今後の運用について話し合い、より良いものにしていきたいと思っている。

事務局：デジタルミュージアムについて、国から助成金をいただき、先進地等を視察する中で開設したもので、美術館が主管の事業ではない。佐久市にある、例えば川村吾蔵記念館や望月歴史民俗資料館、天来記念館などの収蔵品を身近に見ていただくためのものである。作品の近くにQRコードを設置し、それを読み込むと解説が出てきたり、あるいは川村吾蔵記念館の収蔵品で言えば、川村吾蔵が制作した彫刻作品を３Dで、全方向から見ることができる。しかしまだ発展途上であり、容量の関係もあり、すべての作品をというわけにはいかない。半年に一度VR展示室の模様替えをし、VR空間で展示を見られるようにしようと、今年の３月に開設した。まだ試行段階にあるため、もう少しお時間をいただき、今年度末あるいは来年度早々にはしっかりとしたものができてくるかと思うため、これについてはしっかりと広報を行なったり、説明をしたいと思っている。

委　員：デジタルミュージアムに関して、文化振興課のものも含めて、例えばサムネイルだけでもすべての作品が見られれば良いと思う。現在はダミーっぽく入っているが、それが変わるということか。

事務局：そうだ。容量についてもだが、ある程度制限もある。デジタルミュージアムを更新していくには、当然費用もかかってくる。そのため、これを最大限活用するにはどうような方法が良いかというのを模索しているところである。実用的になるには、もう少しお時間をいただきたい。

（３）令和９年度以降の事業について

事務局：（３）説明

委　員：松井康成は個人的にやりたかった展覧会である。このような展示は、普通に見てもわからないと思う。美術が好きな人だけではなく、一般の方にも行ってみたいと思ってもらえるように、何か面白いことをやっているなとか、何か変わったことをやっているななど、松井康成に関しても例えば少し手を動かしたら理解が深まるということもあるかも知れない。今まであまりやってこなかったようなことも含めて、お金が必要なこともあるかも知れないが、なくてもできることがあると思う。色々

アイデアを出して企画してもらいたい。松井康成は工芸のため、絵画と違って引力がそれほど強いわけではないと思うが、とても素晴らしい作品がたくさんあるため、ぜひ多くの方に見ていただきたい。ぜひそういう工夫をしていただきたい。

事務局：事務局から少し補足をさせていただきたい。せっかくこのように協議会で委員の皆さまにお集まりいただいている。現在は一方的に令和９年度以降の事業についてこれをやりたい、あれをやりたいと言わせていただいているが、作品をお借りしたり、あるいは良い展覧会を開催するには、２，３年を見据えた中でやっていかなくてはならないということは皆さんもご承知の通りだが、市が事業を行なうにはどうしても予算の問題がついてくる。しかし、そうはいっても、こうようなことをやりたい、あるいはこのようなものはどうかというご意見を聞く諮問機関はこの協議会であるため、会議の場だけでなく、会議が終わってからでも、令和９年度以降の事業については第２回協議会も今後あるため、それまでに、あるいはそれ以降でも、このようなことをやったらどうかなどのご相談をいただければと思う。我々もしっかりとそれについて協議をし、すぐにできるかどうかについては約束できないが、今後しっかりとした美術振興をするために検討していきたいと思っている。

委　員：美術や芸術は、街づくりに関係している。皆さんご存知の通り、アートで街づくりというのは、今は色々なところでやっている。金沢でもやっているし、近いところでは前橋市でもやっている。前橋市は昨年、国土交通省都市局の「まちづくりアワード」を受賞している。眼鏡ブランドの「JINS」の社長がお金を掛けて街づくりをしており、芸術系の人たちの中で話題になっている。また、北杜市にもアーティストの方がいっぱいいるため、そういった事例を見学に行くことはできないか。予算が掛かるようであれば有志で行けばよいため、そういったこともぜひ企画して欲しい。

事務局：今お話しいただいたように、前橋市という近いところで町おこし、あるいは街づくりをしているということで、今年度すぐに視察ができるかと言うと、これに関しては今のところお答えは出来ないが、今後そういった予算を取りながら、そうした場を視察し、皆さまにご意見をいただくというのは大事だと思っている。

委　員：良い前例や経験、知識を勉強する機会があると良いと思う。

委　員：数年前、入館料無料など色々試行錯誤をされて、現在の入館料をしっかりと取り、良い展覧会を開催するという方向にシフトしていったと思う。今後を見据えていく上で、その方針は変わらないのか。

事務局：以前の方針が消えたわけではない。どのような形で美術振興をしていくのが良いのか、例えば他市の事例もある。昨年度の収益では観覧料が150 万くらいある。歳出については、人件費等も含めると１億円ほどになる。費用対効果を美術に求めるということはできない。そのため、入館料を無料にし、なるべく多くの皆さまに見ていただいたり、美術振興として美術に興味がない方にも企画展ごとに来館していただいたりということを考えると、非常に大事な視点だと思う。方針が消えたわけではないため、近い将来、しっかりと議論をするタイミングが訪れると思う。しかし、今はその時期ではない。我々もしっかりと勉強しながら、また委員の皆さまにご意見をいただく中で、議論する機会を設けていきたいと考えている。

（４）佐久市立近代美術館の現状と課題について
事務局：（４）説明

委　員：協議会委員になってから、企画展の案内をいただいており、どこかで行きたいとは思っている。情報発信というのは非常に大事だと思う。例えば一度来館した方にメールアドレスを聞けば、いくらでも情報発信ができる。さくステに企画展の情報が掲載されているかはわからないが、例えば市長にご飯ばかり食べていないで美術館に来館してもらったりなど、そういうのは一つのやり方だと思う。市の方だけでなく、それ以外の方も、どこかで情報を見ている人がいる。
また、サポーター制度などはどうか。市民の方を無作為で抽出して勝手にサポーターに任命してしまうなど。私も色々な団体で役員をやっているが、例えば「あなた委員ですよ」と指名すると、相手はやってくれたりする。希望者を募っても、誰もやってくれない。一方で指名すると、真面目な方たちはやってくれる。美術館に興味のない方にいかに来てもらうかということを考えると、「あなた近代美術館の委員ですよ」と言ってしまうくらいの方が良いのではないか。

委　員：サポーターについて、とても面白いと感じた。何かを強制するわけではなく、何かのイベントの際にお手伝いをお願いするなど、やり方は色々ありそうな気がする。

委　員：サポーターの件については、友の会とどのように区別するのかということはある。

以前は、中学校の鑑賞の授業で使用してもらうといったことが定期的にあり、とても良かった。今はほとんどゼロだと思うが。足がないから来なくなったという話もあり、その際には来なくなったならば行けばいいという考えのもと、出前授業を行なったりもした。現在の学校現場の実情では難しい面もあるかも知れないが、例えば東御市では朝鑑賞を実施していたり、実物を持っていかなくともできることがあると思う。実際に来館してもらうことはとても大事でありそれが一番いいとは思うが、それだけではなく、美術館の存在を知っていただいたり、あるいは美術に親しんでもらったり。美術を鑑賞するということ自体にハードルがあるというのは、この話をもう何十年しているのかという話でもあるが、やはりハードルはあると思う。その部分をクリアしないと、そもそも来ないという部分は何も変わらないと思う。そのため、何か変わったことをはじめたね、くらいのことを実施していかなければ、何も変わらず、美術館に行ってみたいとは思ってもらえないのではないかという危機感を抱いている。色々なことがあるため簡単ではないと思うが、他の美術館にできてこの佐久市立近代美術館にできないということはないと思う。できるところからだとは思うが、興味のありそうな学校の先生などもいると思うため、無理のない範囲でめげずにアクションしていかないといけないと思う。

もう一点は収蔵品に関して、文化庁でも新しいガイドライン（「博物館の設置及び運営上の望ましい基準の全部を改正する告示」（令和８年文部科学省告示第 69 号））が出ているが、新収蔵品に関して、令和６年度も令和７年度もあり、収蔵している美術資料をどうしていくのか。どのように収集、管理するのか、そもそも除却するのかという話に世間ではなってきている。事務局の説明の中に収蔵庫が狭隘化して大変だという話があったが、そのような状態の中でなぜその作品を収蔵したのかということは問われてくる。また、問わなくてはならないと思うし、それについて美術館は主体的に見られないと思う。色々なことがあると思うため答えなくても良いが、それも含めて喫緊の課題にもなってきている。作品は大事だが、これから百年先の未来も見据えて考えていかなくては

いけないのではないかと思う。そういうことも含めて再構築の話なども進めて欲しい。

委　員：学生向けにはなるが、佐久市市民活動サポートセンター「さくさぽ」が実施している「佐久平 地域まるごとキャンパス」がある。高校生が企業や団体と一緒に課題に対して取り組むもので、高校の探究授業などに近いと思う。例えば美術館も団体登録をして、高校生がなぜ美術館に来ないのかを自分たちで考えてもらい、そのアンサーを聞くなど、そうした取り組みがあっても面白いのではないかと思う。今年度はもう募集が終わっていると思うが、佐久市としても繋がりがある団体だと思うため、参加してはどうか。高校生が考える機会を地域が与えるというのはとても良いことだと思うし、それに対して高校生も本気で答えを出そうとしている。また、イベント的に楽しんでもらったり、そうした活動に参加すると内申点が良くなったりと色々あるとは思うが、高校生は普及力があるため、そうした活動で協力したり、あるいは何か一緒にできないかと提案してみたりなど、考えてみて欲しい。

委　員：色々な意見が出たが、まずは佐久美術展についてお礼を言いたい。佐久市との共催で、80 周年記念展をこの美術館を全館貸し切りでやらせていただいた。事前に打ち合わせをして実施したが、展示がなかなか難しく、簡単にはうまくいかないこともたくさんあった。これからに向けての注意点やお互いの要望などは検討していきたいと思っている。

佐久美術会は、毎年高校生を対象としてデッサン会を開催している。佐久市と東信の高校で７，８校集まり、創造館で講習会を実施し、その作品を佐久美術展で展示している。今年も３階に展示した。昨年からは中学生にも声を掛け、昨年は小諸東中学校、今年は御代田中学校や軽井沢中学校など３校に参加していただいた。その子たちの作品はとても良いという声が他の方からもあり、小諸東中学校は先生が引率し、バスで来た。高校生はご家族と来たり、友たちと来たりする。小さいことだが、このように若い子たちが足を運んでくれれば、他の企画のときにも来てくれたりなど、そのような動きになってくるのではないか。

事務局：いただいたご意見を内部の方で精査し、検討させていただき、先ほど話題に上がった美術に興味のない方や美術館があることを知らない方にいかに来館していただくかという点について、もう一度職員で考え、より良い PR 発信や親しみのある美術館を目指して、考えていきたい。

委　員：令和７年度の事業報告の部分で、「（１）観覧者数」と「（４）開催展覧会」に記載されている観覧者数が異なっているのはなぜか。

事務局：説明不足で申し訳ない。「（１）観覧者数」は無料ゾーンを含めた数字を記載しているため、異なっている。

（５）その他

報告事項

・条例改正の結果報告について

事務局：説明

（５）その他

連絡事項

・第２回協議会の日程について

事務局：説明

４　閉会

お礼のあいさつ（館長）